



414  
A 1040



文久癸亥曰藩ニテ曰政府ノ命ヲ奉シ江戸住居  
 ノ面々一同佐倉居住ノ命アリ有志ノ徒建議ニ  
 ヲリ原野開墾説ニテ吾輩飯野村臺林地ヲ賜ハ  
 リ自カヲ開墾シ永代居住スヘキ命アリ元治甲  
 子秋居宅造立移住セシヨリ官暇ノ日ハ日夜勉  
 勵賜ハリシ地ハ周年ニシテ開墾成レリ抑當國  
 ハ曠漠ノ地多クシテ物産ノ生セサルヲ憂ルハ  
 積年ノ素志ナリ因テ同志ノ面々ト耕種ノ道ヲ  
 實地ニ講究シ或ハ老農ニ問ヒ又ハ私財ヲ試験  
 ニ費スコト此ニ数年稍開墾ハ肥糞ノ生スルヲ

大正十一年四月

以テ度ト為スヘク徒ニ多耕スルノ無益ト茶桑  
馬鈴蔗ノ有益ナルヲ覺レリ明治庚午ノ冬ニ至  
リ相議リ近郷ニ若干ノ地ヲ求メテ共樂圃ト名  
ケ茶桑馬鈴蔗ヲ作レリ辛未春恭西農學ヲ聞セ  
シヨリ肥糞ヲ生スルハ牧畜ニ如サルヲ知リ共  
議シテ豢豚ヲ試ミ果シテ牧畜ノ肥糞ヲ生スル  
簡便ナリ同秋佐倉ニ協救社ノ豢豚法開ケ豚  
ニテ倍確定セリ同冬旧藩士卒樹産ノ為ニ地可  
御拂下ケノ御仁軍アリ是ニ於テ同志ノ面々  
ト議リ同心協力ニ非サレハ成功盛大ニ至リ難

シト因テ同心協力結社ヲ為シ同協社ト唱ヘ一  
ハ御仁恤ノ御趣意ヲ奉戴シ面々生産ノ目的ヲ  
為シ一ハ曠漠荒蕪ノ土地ヲ變シテ良圃ト為シ  
國家ノ為ニ大利益ヲ起シ他年海岳之御恩惠  
ニ聊カ奉答セント希望ス夫レ同協社初ノ二十  
余名事ヲ起シヨリ僅ニ數旬ノ間ニ同志ノ者  
百十余名ニ至レリ現今ノ如ク一同奮勵シテ情  
タラサルトキハ成功ヲ期スル遠カラサルナリ  
牧畜ハ同協社開墾ノ基礎ナリ協救社ノカララ  
御カサレハ遠ニ蕃殖ニ至リ難シ然ラハ協救社

一 同協社ノ成功ニ大ニ勉ムルアリト云フ  
開墾法ニ三条件アリ

第一肥糞 第二耕力 第三基本金

右三条件適當セサルトキハ必ラス成功ニ至リ  
難シ肥糞ヲ生スル處ニ意ヲ用ヒス多クノ金ヲ  
出シ肥糞ヲ買入ル、トモ損失多ク利益少ナシ  
故ニ三条件適當ノ上面々奮勵シ怠惰モサルト  
キハ成功ニ至ランコト疑ヒナカラシ

一 同協社之概意

地所ハ自カラ開墾耕種シ惣テ費用ノ多カラヌ

ヲ旨趣トス 費用多キトキハ速大ラ期シ  
テ塔ノ難ク事ヲ誤レル多シ 人々強壯煥弱ノ身體  
ニ應シ誠實ヲ以テ適宜ニ盡力シ一己ノ誠實ヲ  
盡スノミ根リニ他人ノ怠惰ヲ咎メサルナリ衆  
指公見ノ不誠實人ハ忠告ノ上用ヒサルトキハ  
社外ト為スナリ

一 事業

成功ハ十年ヲ期ス 期ヲ急クトキハ成リ難シ 一人一ヶ月五日宛墾  
場工相詰十三坪宛開墾 一人及別六及余ナリ三年ノ間十三坪四年  
目ヨリ二三坪増加スヘシ尋常ノ人一日ニ曷シ  
其方法ハ先ツ草ヲ刈リ干シ草ト為シ貯ヘ置豚  
小屋工入レ藁ニ代用ス 草ヲ入ルトキハ  
取テ為シ思シ 土地ヲ墾シ

草根ヲ取ル草根ハ風除ノ為圃ノ側ヲへ小堤ノ  
如ク積立追テ薪ニ代用ス圃エハ半夏迄蔗ヲ植ルナリ右課  
程終レハ其圃ノ培養道造リ薪取等適宜ノ事  
ヲ為シ都テ人ヲ雇ヒ入レサルナリ大小麦等ハ  
一切作ラス大小麦ヲ作ルトキハ多クノ精力ヲ費ヤシ肥糞ニ損失多シ茶圃ト為シ其間蔗  
ヲ作り又桑圃モ有ルヘシ

一 肥糞

地所一及歩ニ一隻ノ豚ヲ配ス茶園ニハ五分一エークル投百養フトアレトモ同協社ハ概々茶園ノ目的ニ一及一隻ニ足レリトス小屋ヨリ出ス處ノ肥糞ヲ投  
糞場エ入或ハ堆糞場エ積立ルナリ水肥ヲ多ク

生センニハ豚小屋ノ末ニ埋メ置大桶肥糞桶ニ掃  
除ノ水流レ入りシニ小屋ヨリ出ス處ノ肥糞ヲ  
浸ストキハ隨意ニ何程ニテモ生スルナリ堆糞  
場ノ肥糞ハ前年ノ積立ヲ以テ本年ノ肥糞ト定  
ムルナリ

一 蔗

蔗ヲ製シ玄製ヲ以テ酒ヲ造リ燒酎ヲ取り全ク  
ノ糟ヲ以テ豚ノ飼料ニ充ツ  
一圃割ハ蔗ヲ堀リ上ケシ後冬ヨリ春迄ニ割り茶  
種ヲ蒔付ルナリ大道中道小道耕路等ノ道ヲ作

リ方正ニ一及歩ヲ以テ一區ト為シ大中小道ニ  
樹木ヲ植ル種類ヲ別テ三段ニ防風ノ備ヘヲ為  
ス盛大ナル事業ハ規模ヲ  
大ニセザル可ラス

右同協社之概畧ナリ尚経験ニ從テ逐次ニ増記  
スヘシ

同協社中  
壬申六月  
五松亭主人倉次亭識



社入金割合  
規則外社入定期  
利益金額与割合  
利益金額与等級  
庶課定則  
社中會計表  
社中相救法  
社中人名  
從五位権田柳齋公贈社中文  
社中謝恩文

同  
撰  
社



大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

追々社入出金割合

第一場 是ハ明治五年社入之者ヲ云  
出金ノ高ニ因テ右ニ準スルナリ  
金六拾貳圓拾八錢七重五毛

仕譯

拾圓

基本金

四圓

司利金

八圓

雜用

四圓

開墾料

貳拾五圓

歩合

拾圓

地所代金

月給ヲ賜ハリ或ハ商業等  
繁劇ニテ補金者  
外ニ  
八圓  
貳拾五錢  
申酉戌  
雜用

金高時ニ隨テ假リニ拾圓ト云



金三拾九圓三拾壹錢貳厘五毛

第二場 是八明治六年社入ノ者ヲ云  
出金ノ高ニ因テ右ニ準スルナリ

仕譯

拾圓

基本金

貳圓

同利金

五圓

雜用

貳圓

開墾料

七拾五錢

酉戌

八拾七錢五厘

酉戌

七圓

歩合

拾圓

地所代金

八拾壹錢貳厘五毛

金高時隨テ假リ拾圓ト云

月結ヲ賜ハリ或ハ高業等  
繁劇ニテ補金ノ者

外ニ  
五圓

酉戌  
雜用

七拾五錢

第三場 是八明治七年社入ノ者ヲ云

金貳拾九圓

仕譯

拾圓

基本金

壹圓

同利金

三圓

雜用

壹圓

開墾料

三圓

歩合

拾圓

地所代金

月結ヲ賜ハリ或ハ高業等  
繁劇ニテ補金ノ者

外ニ  
三圓

戌  
雜用

金高時隨テ假リ拾圓ト云

明治八年一月ヨリ左之通

第一場工社入

金拾圓

増歩合

第二場工社入

金七圓

同

五拾錢

第三場工社入

金七圓

同

五拾錢

第四場

亥二月ヲ以テ  
初トス

金貳拾五錢

雜用

金指貳錢五厘

亥二月  
開墾料

金拾貳錢五厘

亥二月  
基本金利息

金五圓

歩合

基本金拾圓

割合等  
從前ノ通

反別  
地代金

其家ノ分限ニ應シ雜用金高ヲ增加スル割合アリ

カラ有ル者ハ力役シ財ラ有ル者ハ財本ヲ出スノ旨趣ヲ以テ規則外  
社入ヲ許セリ規則外社入ハ地所又ハ財等ヲ以テ費用ヲ助ル故  
右百子志ヲ謝シ永ク出金ニ及ハス社入ス其割合左之通

明治八年三月

地所拾町歩以上

金百圓以上

明治六年四月ヨリ

地所拾五町歩以上

金百五拾圓以上

明治七年

家祿奉還 御聞届寫キ

朝旨モ之レ有ル者 割合ハ明治六年ノ通り 据置且金ハ秩祿公債  
證書ニテモ宜トス

明治八年一月ヨリ

地所貳拾町歩以上

熟地タルトキハ三分ノ一ニテ宜レトス

金貳百圓以上

右高ノ以下ナルモ六分ノ一マテハ 許スヘシ以上ナルトキハ歩合ヲ

増コト尤ノ如シ

明治六年三月マテハ

貳百圓以上ハ 一人三分

三百圓以上ハ 一人五分

五百圓以上ハ 二人分

七百圓以上ハ 二人五分

千圓以上ハ 三人分

千圓以上右ニ準シテ増加

明治六年四月ヨリ

三百圓以上ハ 一人三分

利益金頒與割合

五百圓以上	一人五分
七百圓以上	二人分
千圓以上	二人五分
千圓以上	准シテ増加

十分	第一場之者
十分ノ五	第二場之者
十分ノ四	第三場之者
十分ノ三	第四場之者

利益金頒與等級

以後年々一分宛増加シ第二場之者ハ六ヶ年目第三場之者ハ七ヶ年目第四場之者ハ八ヶ年目ニ第一場之者ト同等ニ至ルヘシ

第一等	自カラ當直ヲ勤ル者
第二等	代人ヲ差出ス者 <small>一家ノ者限ル</small>
第三等	當地居住補金之者
第四等	他方居住補金ノ者

利益金頒與ノ内積立金ノ為メ社ニ納ムヘキ割合

貳厘五毛

第一等之者

五厘

規則外社入ノ者

十分ノ一

第二等之者

十分ノ二

第三等之者

十分ノ三

第四等之者

社中ノ株ハ一同ノ勵精盡力ヲ成功ニ至ル開墾故相續ハ一家ノ子弟等ニ譲リ候ハ若シカラス候得共假使子弟タリトモ他家ノ者ニ相成ラス都テ賣買ニ紛ラハシキハ堅ク禁止

ノ事

開墾成功ニ至リシ上ハ假使其子孫不誠實人有モ其先人ノ結社勵精セシ事ナレハ其家ノ親族ニ代リ社ノ世話方ニテ當人ノ處置ヲ為シ其家ヲ保護シ廢絶ニ到ラサル様注意スヘキ事

社中世話方アリ世話方頭取アリ人撰ハ衆議ヲ以テシテ社長ヨリ頼ミ入ルナリ分課左之通

開墾課

養豚課

當分肥糞課トス

器械課

造修課

會計課

賄課

蔗課

茶課

諸樹水草花等植附ノ種類ハ面々隨意ニ差木實生  
苗木等持寄り植附候事

明治五年三月同協社開業ノトキハ基本金貳百圓ヲ

以テス

百圓

協社ノ基金ニ出ス

百圓

諸入費 麥豚所居小屋  
豚小屋 井戸 農具等ノ類

右貳百圓ノ金ヲ以テ起業シテヨリ追々社入アリ

左ノ會計ヲ為スニ至レリ

明治五年三月ヨリ

出納

同六年三月マテ

金貳千七百三十壹圓

七拾貳錢貳厘九毛

社入並諸種  
八金

拂合金五百八拾五圓貳拾錢七厘九毛

差引残

明治六年四月越

金千百四拾六圓五拾壹錢五厘

明治六年四月ヨリ  
同七年三月マテ 出納

金六千八百〇八圓

拾壹錢四厘八毛

越金社入并諸種  
入金

拂合金五千四百〇壹圓

三拾錢。〇五

差引残

金千四百〇六圓八拾壹錢四厘三毛

明治七年四月越

丸ノ種類ノ入金ヲ以テ積立金ヲ設ク

基本金利息 社入歩合金 不時ノ雜入

規則外出金ノ三分一 碩與等級分合納金 總計ナシ

金七百七拾五圓

三拾九錢九厘九毛

明治七年三月マテ  
積立金高

右積立金追々増加ニ從テ同心協力患難相救ノ旨趣ヲ以テ相救法ヲ施行ス

社中相救法

○吉事貸附ハ三ヶ年賦五分ノ利息

男女婚姻等ナリ

○凶事貸附ハ五ヶ年賦無利息

但雜用トシテ百分ノ一割ヲ以テ差出費事

死葬 風害 火災等ナリ

○經濟向不如意貸附ハ趣意ニヨリ三ヶ年賦

或ハ其年限リニ返濟壹割ノ利息

婚姻

他家ニ遺ス分

金拾圓迄

自家ニ引受ル分

金五圓迄

死葬

當主ハ

金拾圓迄



家族ハ

金五圓迄

同三歳以下

金三圓迄

風害

吹潰レナリ

金三十圓迄

火災

金五十圓迄

経済向不如意

金員不定

右積立金未タツナケレバ死葬ノ一事ハ人家之  
一大窮厄忍ヒ難キ事ユヘ右一事ハ既ニ施行セ  
リ其余ノ条件ハ金高ノ増加ニ因テ施行シ然ル  
後衣食足りテ禮節ヲ知ルノ順序ヲ以テ學校ヲ  
建立シテ子弟教育之道ヲ開カントスル目的ナリ

同悞社人負

肩書十子壬ノ者曰佐倉藩下  
國名郡名十子壬ノ者曰近郷ノ者ト云

西村茂樹 依田百川 熊谷 燕 倉次亨

入江 暢 荒井樂圃 櫻井義制 倉次春樹

長谷川千四 赤井 潔 山口用之助 水村幹

富樫多苗 岡左七郎 宅間 遠 中條直道

依田 貞 庄田良光 石嶋 介 大木安藏

小川 賢 吉澤房治 水川 直 依木徹

服部多膳 出野解 金子直候 井村 隆之丞

福與久德	岡田德兵衛	田村右門	香義部順
松崎彦藏	飛田菊太郎	村井列	石川丸内
木原隆造	島田 袁	日保健藏	松原信
櫻井勇義	藤平義從	松永義珍	木村重入
岩 胤	弘 川合忠兵衛	岡司清澄	田内成立
吉澤昇造	若林抱樸	日野致晃	柏谷 濟
阿部金治	菅谷善之助	小林登良	瀧野勝興
間宮茂有	三須瀨衛門	志田亨	大宮吉壽

下坂 豊	神取德之助	平田 直	梅村 湊
荒木 寛	杉村雄治	田中治興	小川五郎
三須 親	日野 光	阿部宇助	隱岐重道
木村 重	飯澤耿介	立見 久多	齋藤傳大夫
志田三平郎	相澤 得	兼松直廣	大野清助
相澤久存	依藤寅藏	大澤鶴次郎	大澤覺之助
大築岩郎	志田 極	田中申七郎	洪井迪德
川口久内	青木林太郎	山崎恒太郎	海老原恭

山本直	木原才	沼田又藏	安塚右仲太
山崎由良治	<small>日龜出藩</small> 大津次	荒井貞介	足立重任
熊谷鉄次郎	今村善平	村井九兵衛	逸見宗照
松田平馬	望月清之丞	朝井直清	小野豊房
井上信利	堀田静雄	増田繁齋門	吉川明
山口佐市	鈴木久左衛門	平尾喬	望月甫
菅谷義質	<small>若田文左衛門</small>	小澤郡職	馬場満興
宮崎直候	小川藤之助	大木久徹	鈴木慎藏

渡邊暘	服谷勇	日野貞吉	此田新
池田作	服部俊秀	千葉光胤	吉村宜
櫻井豊	新達友輔	<small>本町高</small> 永倉源次兵衛	<small>日靜岡藩</small> 黒澤貞次郎
西山久	浅井忠	<small>本町高</small> 日暮胤次郎	小林冬秀
平田諒介	黒沼義方	牧野藏	只倉元治
永井岩太郎	大瀬岩次郎	野村随縁	永上清哉
<small>田了高</small> 齋藤部共徳	垣川吉修	堀江留衛門	沼澤忠助
押尾珍三郎	川邊雄	永田茂	依木霜翁

赤尾利 赤尾豊 鳥井榮樹 鳥井復三

山上辨三郎 角田慶弥 小川平 小川周之助

小林邦光 小林豊治 花村滿寛 花村六郎

栗原静 大澤省三 葛田千之丞 高橋武

才三内 依藤強老衛門 齋藤兵衛 新谷齋輔 川久保東馬

依之水源十郎 星川運太郎 志田盛軒 松虎五郎

安並賢 林敬勝 土屋英之助 杉村基

鈴木官藏 櫻井環 牧野清風 植木甫

木村典 兼坂喜郎 山崎源次郎 依久間安明

兼坂登 小紫傳太 古畑恭 栗田香

宮本碩三郎 大寺彦之丞 松井久次郎 松井駒橘

青木文次郎 樋口文恭 宮野澄 旧松尾藩 河野弘人

出野等 濱野了元 上野良輔 旧松尾藩 穴倉平治

瀧本藏 坂田飯治 櫻井定 大寺奇良顧

木村徳齋 北田稔 河合祐之助 依藤久作

根本主 服部貞次郎 渡邊直行 河原恭藏

水飼景佳

依治精一郎

藤本又次郎

松村直江

大手右門

根本守廣

坪井平兵衛

山崎右兵衛

外山省

菊間源光衛門

鈴木久

山川直礼

<sup>上所高</sup>鹿島重次郎

<sup>横丁高</sup>芝本久兵衛

<sup>横丁高</sup>宮代忠兵衛

潮田儀雄

本林衷中

星野操

<sup>甲丁高</sup>升葉佐七

今野寛造

大瀧修造

平川利武

今井兼善

<sup>本丁高</sup>石喜平

倉田莊藏

<sup>本佐高前高</sup>小川善之助

平野高

<sup>裏丁高</sup>内藤昌日

志津野周作

根本清衛門

竹内功

<sup>裏丁高</sup>大木和助

松村武藏

串之五九衛門

<sup>本丁高</sup>串之銀之助

飯田岩治

長谷川高義

松原廣右衛門

<sup>本丁高</sup>押尾清兵衛

鈴木元太郎

伊澤直

富田坦

小幡羽平齋

櫻井義勇

小川成雄

宇佐見忠吉

柳内則誠

井口宗平

水谷如雲

柘植藏二

岡本大道

<sup>本丁高</sup>石渡市太郎

高木徳

飯塚章藏

田中喜代七

神村善齋衛門

花井研藏

依之木伸

福山昌

瀬原善人

石田増太郎

田中武

八木弘

<sup>海降寺前丁高</sup>秋山崇吉

磯矢與市 逸見濃夫 青水傳藏 後藤太助

宮崎重賢 齋藤利加 鍋本村農 岩淵儀兵衛 但馬長九郎

佐波通任 芝本幸三郎 横丁高 尺岡慶治 海濱寺門前高 藤井外之助

岩堀貞之進 大塚村農 實川久兵衛 間所高 加藤清助 後戶村農 内田清太郎

三浦 貫 永田寅太郎 河合七郎兵衛 佐久間深造

村松元太郎 富樫澤右衛門 宇津水行藏 水林田義郎

半澤宗三 大塚恒治 依藤音治 水原直藏

丸山善次郎 角末村農 中村長助 左七郎女 藤 梅村藤郎

佐分利重美 後戶村農 三須太左衛門 後戶村農 押尾庄五郎 後戶村農 三須市郎兵衛

岡田盛寛 東京府貫高 山本穗次郎 稻村岩三 瀧本千幹

杉浦忠明 石井善兵衛門 丹治平助 成田喜内

淺羽成徳 吉原盛之 宇佐見庸 宇都木朋

櫻井永助 宇都木米藏 片岡錠助 水林治之

鈴木藤助 中臺要助 神取辨之助 水林喜惣太

長谷川嘉兵衛 彌勒丁高 松本嘉吉 李丁高 大田垣衛守 武田官

黒沼卯三郎 塩野 營 菅苗農 中臺立良 里澤快助

大森助郎

吉増 胤

齋藤仙之丞

川口権三郎

本丁高 根本乙兵衛

尼子一二

本丁高 齋藤仙之丞

中丁高 田中 豊治

角末村農 兼坂元助

武藤圓七

村田直衛

大宮 徳

石澤久右衛門

飯嶋 境

早村僧 日野 梅陰

寺田 淀七

大手 鏡藏

岡本弘世

熊谷織衛

半田未七郎

依野 蔀

浅岡景清

山崎 岩太郎

川邊 新

坂本 兼三

本丁高 宇佐見祐郎

大關村農 実倉甚右衛門

武藤金三郎

中丁高 宮野茂助

久保 久

高瀬 清

大瀧 富三

旧大田原藩

阿久津資生

松浦民之助

隅谷泉造

本佐倉村農 高橋助次郎

横丁高

武田定兵衛

高岡村農 小川辰右衛門

東京市實居 宮内 廣

横丁高 宮代忠右衛門

岩洲 春

赤尾久次郎

手塚壽次郎

植松友之丞

沼崎 矢郎

宮原 篤

布施 章

河西吉次

古川忠藏

古川 立助

栗原猪九郎

小林吉武

田内 成人

本丁高 白井惣七郎

本丁高 宮田利兵衛

花井直

鑄水村農 山石洲傳藏

松村兵平

清水壽居

尼子得藏

木村利一

飯尾登

早麻布藩 中里信齋

木林友道



西 敬

角来村農

兼坂茂齋田嶋 傳

都築研介

平田周作

海陽寺門前高

及川佐兵衛

大開村僧

貫名美連

早高

小川佐兵衛

小出善繼

生谷村農

根本才兵衛

角来村僧

植田恭道

河西恭人

武藤保之丞

旧鶴牧藩

石井興八郎

小林光吉

黒澤仲司

若林頼寧

野村繁太郎

赤尾有鄰

山岡太郎

大沼左太郎

松村親平

松本圭二

平田潤平

木林村忠作

渡邊領助

旧弘前藩

徳永正厚

旧弘前藩

松本定正

岡田惣輔

間宮善次郎

長九村農

櫻井幸七

新治縣曾馬田神官

香取致恭

藤井善言

東京府

一西村玄堂

山上績

伊藤卯太郎

今井尚可

旧淀藩

高濱忠怒

旧淀藩

八太桂芳

兼松次郎

宮崎笹雄

東京府農

小林源次郎

綾部平輔

大木林義

津田政藏

長岡衡

大塚初太郎

大室庫三郎

由比護

須藤兼徳

久代信義

村松善介

三須次郎兵衛

榎戸村農

新藤藤弥

小島善右衛門

規則入社人員

明治六年三月

金三百圓

金百圓

金百圓

野地拾町步

明治七年秋祿公債證書

金百五十圓

金百五十圓

從五位堀田正倫殿

權大侍醫伊東盛賢殿

佐藤尚中次男

城

衛

綿貫右馬之助

父遠村農

熊谷燕

倉次身

金百五十圓

金百五十圓

金百五十圓

金七拾五圓

金七拾五圓

金七拾五圓

金五拾圓

金貳拾五圓

入江暘

庄田良光

下坂豊

長谷川千仞

出野解介

永田力雄

嶋田衷

瀧野勝急

明治七年秩祿公債證書

金七拾五圓

花村六郎

從五位堀田柳齋公贈同悌社文

天人ニ賦與スルニ靈慧ノ性ヲ以テシ加之五官百骸備ハラズ  
 ナレ苟モ自ラ養フテ知ラズシテ人ニ養ワレ自ラ立ツテ能ハズ  
 シテ人ニ養ワレ自ラ立ツテ能ハズシテ人ニ倚テシテ何ヲ以テ  
 人トシヤ縣治一政ノ草マリヨリ舊藩士等皆為ス  
 ナクシテ民ノ租稅ヲ食フ是レ已タ得ザルニ出ト魚氏實ニ人性ノ  
 自然ニ害アルモノト云フニ諸君ヨク其理ヲ通曉シ衆心同悌財  
 モハ財ヲ出シカアルモノハカヲ出シ荒蕪ヲ墾闢ニ地カラ盡  
 テ自ラ養ハ自ラ立ツ基ヲ立テシトス予之レヲ聞テ甚喜堪ハス  
 請テ其社ニ入リテ同ク其志ヲ成サントス然レ氏今テ諸君ノ  
 耕ス所ハ皆皇土ナリ予諸君ト同ク皇民タリ出ス所ノ財モ  
 又皇澤ノ餘リナリ皇恩ニ非ザルヨリ安ニヨク太平ノ化ニ  
 浴シテ其業ヲ成就スレテ得シヤ予聞凡ソ事ヲ成スハ勉勵  
 倦ガルト衆カラ合セテ和スルトニ在リト歎ニ事ヲ以テ自ラ  
 奮テ天恩ノ辱キヲ忘レスワ耕耨ノカラヨク萬年ノ基ヲ

立ト云フモ山豆然トセシヨ蓋壘關ノ切ヲ創ルヨリ千餘年  
其志誠其業愈進予茲諸君ノ志ヲ嘉ニ贈ニ以  
言ヲ以テス

明治六年癸卯三月念二 從五位 堀田正倫

同懐社謝恩文

維三月三十日同懐社人負等<sup>清酒ヲ獻トシ恭ク</sup>コノ地ニ獲タル潔菜自釀  
北關<sup>皇澤ニ沾イ各自ラカヲ竭シ勞ヲ憚ラス此ノ壘關ノ業</sup>是レ  
夫レ國ヲ治メ天下ヲ平ニシ能ク庶民ヲニテ太平ノ化ニ浴セシム  
君上ノ職ナリ業ヲ勸ミエテ勉メテ自ラ生活シ

君上ヲ煩ハサス自ノ分際ヲ盡シテ國ニ報スルハ是レ庶民ノ職ナリ  
人負等<sup>ヲ以テ同社ノ諸人ヲ會同シ野菜ヲ有トシ村酒ニ飽醉シテ</sup>即是ナリ今日ハ始ナラ開壘ノ業ヲ興セシ日ニ  
歡ヲ盡シ且交ヲ厚クシ業ヲ勉ムル一ヲ謀議ス茲ニ恭ク拜告  
天恩ヲ謝シ奉ルト敬テ白ス

